

■中国道(吹田 JCT～宝塚 IC)の橋梁等の損傷状況

当区間は、関西都市圏における創生期の高速道路であり、約 50 年が経過しております。開通後の交通量の大幅な増加や車両の大型化などにより、橋梁等の構造物の損傷が進行しています。これまで橋梁の床版等については、部分的な補修や補強を繰り返してきたものの、路面から橋梁下面まで貫通するひび割れの発生や、被覆するコンクリート剥落による内部鉄筋の露出・腐食など、床版構造本体の耐力に影響する損傷が多く発生する等、劣化の進行が著しいため、取り替え等抜本的な対策が必要となっています。

